

太田市住民協議会（第4回）  
議事概要

太田市



## 第 1 分科会

区分	第 1 分科会
コーディネーター	構想日本 政策スタッフ 田中 俊
日時	2018 年 10 月 21 日（日）午後 2 時 00 分～4 時 00 分
場所	太田市役所本庁舎 10 階 10A会議室

## 主な論点

### 課題「ごみ減量化への意識が高い人、低い人など市民意識はさまざまである」について

- コ) ごみ減量化への意識が高い人、低い人など市民意識はさまざまという論点について、ごみの事を知ってもらうためにも、清掃センター及びリサイクルプラザを見学したりする事が、ごみ減量化につながるという意見も出ていた。現状では、太田市内の小学4年生を対象として見学を行っているということだが、この点についていかがだろうか。
- 委) 個人で見学しようとは思わない。地区の組長や区長にまとめてもらって行くのがよい。音頭を取ってくれる人がいれば行きやすいし効果もある。自分の目で見れば、まわりの人にも話せるし行ってみたい人もいるのではないかな。
- コ) ごみ減量サポーター（仮称）のような行政から市民への説明だけでなく、市民から市民へつなげる役割を作り、市民間での意識の差を埋めてもらうという意見も出ていた。ちなみに各地区に、環境委員と呼ばれる役割があるが、どのような活動をしているのだろうか。
- 市) 環境委員の役割は、地域の環境や清掃活動である。ごみの減量というよりは、不法投棄などについて、行政と市民の間に入って調整してもらう。  
また、特に大きな役割としては、年2回あるクリーン作戦がある。
- コ) 地域の中の環境保全のリーダー的存在というところだろうか。ここでは、行政から頼まれてやるのではなく、市民同士で自主的に市民の意識を高めていく役割としてサポーターのような存在があるといい。
- 委) ごみ減量に特化した環境委員として活動したらいいと思う。ごみ減量のセミプロとして、私たちが、ここで話し合った内容を「見える化」して伝えれば、地域としても取り組みやすいのではないかな。
- 委) 毎年、配布される年間予定表がとても見づらい。お金をかけてデザインしてもらったり見やすくしたり、ごみ減量の楽しさを表現したりイメージを良くすることも大切。

### 課題「ごみ減量化がなぜ必要なか明確になっていない」について

- コ) なぜごみを減らさなくてはいけないのか。減らすことで市民にどんな効果があるのかという意見も出ていた。  
市としての目標はあると思うが、コストとして市民一人一人が、これだけ減らすと全体がこれだけ減るなど現状を詳しく説明していく余地がもう少しあるのではないかな。  
ごみ減らすとこの先にどんな世界があるのか。行政の皆さんに対しては難しい話題でもあるが、それを分かりやすく市民に説明していくことも同時に必要かと思う。
- 委) 分別の意味が出てくると、モチベーションも上がるし、どれだけ自分たちに利益があるか数字で目に見えてくれば、今、分別されている方もやってきたことが良かったと確認できる。

地区の役員が集会所で集まって、住民に伝えるといいのではないか。

- コ) ごみについては行政側からすると情報が有りすぎて、どのように市民に伝えればいいのか悩んでいるということもあると思う。  
この協議会のように、行政と市民が直にコミュニケーションをとれる場所があるといいのだろうか。

**課題「分別方法が複雑で、市民が理解して分別できていない」について**

- コ) 分別という点では、雑がみにターゲットを絞った取組の強化について意見が出ていた。各家庭から排出されるもえるごみで、雑がみが分別されれば、ごみの排出量はかなりの縮減が期待できる。
- 委) 雑がみの分別に、専用の袋を用意するのはどうかという意見もあったが、現状のように、紙の手提げ袋に入れて出せる方が簡単でいい。
- 委) 紙袋に雑がみを入れて行政センターに出しに行ったら楽だった。一緒にペットボトルやトレーなども出せて、ごみが半分くらい減った。  
1週間、これくらい減ると自分で写真に残して、行政センターの倉庫に写真で掲示し、実際にやっている人が近くにいると習うとやりやすい。
- コ) 分別したら効果はあるが、これを市民全体一人一人に広げていくには、どう伝えていけばよいかという点についても課題がある。
- 委) 雑がみを知らない人が、かなり多いのではないか。雑がみを家庭で分別するのはそれほど難しくないとし、雑がみにターゲットを絞ることは、一番効果があると思う。
- 委) 私は出かけるついでに出すようにしている。知らない人は考えないが、もっと紙ごみのキャンペーンをして、市民がごみの事を身近に考えるようPRしてほしい。行政センターなどに出せることも、浸透させていかななくてはいけない。

**課題「分別、資源化を促す仕組みが整っていない」について**

- コ) 資源化を促す仕組みという点については、ごみを出す際に市民が負担する料金の見直しについて意見が出ていた。前回の会議でも、ごみ袋の値段を上げていくのも仕方ないという意見も出ていた。
- 市) 行政としても、ごみ袋の料金については見直す余地があると思っている。料金設定は条例改正が必要になるので、議会の承認が必要になる。市民の理解を得るためにどのような値上げの仕方がいいのか悩んでいるところである。
- 委) 全国平均にするまで上げる。全国平均はこれくらいだから、これくらいは負担しましょうとか、分別しないと値段が上がるとか。
- 委) 値上げは難しいが、ごみ処理費用が22億円かかることなどの、効果的な伝え方を考えて理解を求めよう。
- コ) ごみの出し方の見直しについても、これから高齢者が増えて車の運転ができなく、行政センターまで出しにいけなくて近くのステーションにしか出せないなどの課題もある。

課題「再資源化できない商品を企業が理解しないで販売しているのではないか」について

- コ) 削減(Reduce)が徹底できていない。ごみを出さないよう積極的に取り組むスーパーと行政とで、連絡を取り合えるシステムを作ったらどうかなどの意見が出ていた。スーパー等の小売店舗で資源回収しているところもあるが、現在、そのような事業者と行政と一緒に話し合いはしているだろうか。
- 市) 今まで、スーパー等の小売店舗と行政での話し合いはしていない。
- 委) 柄付きのトレイなど見た目を良くして売れるように販売していることがある、再資源化できない商品がとても多い。
- 委) 不便、不衛生を考えるとトレイを使わないのは無理。また、一部の店舗でやっても業者間で一斉にやらないと効果はない。
- コ) お客さんのためを考えて企業はやっているのに、企業と買い手をセットで考えていけないといけない。
- 委) まず、個人個人が減らしていくことからスタートする必要がある。最近は宅配で買い物をする人も増えているので、買い物スタイルも変化している。
- 委) 高校で売っているお弁当なども沢山のゴミが出る。高校や会社が過剰包装をしないように呼びかけていけば減ると思う。高校生もごみを出さない努力もするようになる。

課題「ゴミステーションが適切に管理できていない」について

- コ) ゴミステーションは現状では自治会で管理している。自治会で工夫している取り組みなどがあれば、他の地区で共有しカラス避けネットや看板など、行政からのサポートを広く浸透させていきたい。
- 市) ステーションの管理は、行政としての支援はしていない。ステーションの相談や苦情は常時ある。カラスよけネットは地区で管理している方に差し上げている。
- コ) ステーションの管理は行政区だけれど、問題があった場合は行政で支援してくれるというところだろうか。
- 地区どうして、サポーターの仕組みや環境保健委員との横のつながりでの情報の共有が良くなれば、ゴミステーションの適正管理が円滑になる。

## 第2分科会

区分	第2分科会
コーディネーター	市原市総務部 次長 高澤 良英
日時	2018年10月21日(日) 午後2時00分～4時00分
場所	太田市役所本庁舎 6階 6B会議室

## 主な論点

### 課題「ごみ減量化への意識が高い人、低い人など市民意識はさまざまである」について

- コ) 清掃センター及びリサイクルプラザを利用したプロモーション  
協議会に参加するようになってから、ごみの減量を意識するようになったなど変化があったと思う。広報紙の情報だけでは住民の行動に結びつかない。ここをどうするか。
- 委) 実際に見て知ることは関心を持つようになる近道だと思う。
- コ) 行政側からして清掃センターやリサイクルプラザをプロモーションとして使うのはどうか。
- 市) 個人や家族では受けていないが地区によっては環境委員さんの集まりでの見学が数件ある。メインは全学校の小学4年生。単体でも申し込みがあれば学校は受けている。大人の見学は多くない。
- 委) 見学する企画があるときに自から参加する人は意識のある人なので行きたい人が行くのではなくて、動員ではないが義務で見学することがあると分別の意識がなかった人が意識を持つきっかけになると思う。
- コ) 見学をしたほうが良いとは思いますが、なかなか自分から行きますというのは難しい。背中を押すような仕掛けがあるといい。
- 委) 30年くらい前、仕事で書類を捨てに来た時に相当の量のごみが毎日処理されていると感じた。
- コ) ごみ減量サポーター（仮称）のような制度についてはどうか。
- 委) テレビで杉並区のごみの違反指導をするサポーターが特集されていた。指導の中で、逆に怒られていたりもしていて、とても大変だと思った。
- 委) 行政で作成するポスターなどについての市民目線のアドバイスならできると思うが、人が出したごみに対して口出しをするなどはできない。
- コ) 他の自治体でも行政のモニター的なサポーターが多い。市民に市からの情報に関心をもってもらうには、せっきゃくポスターなどを作っても分かりにくかったら市民に伝わらないので、サポーターの活用はいいと思う。
- 委) 小学生では無理だと思うが高校生のサポーターを育成したらいいと思う。そうすれば親にも伝わり広がっていくと思う。
- コ) 京都は大学が多く、学生がごみ減量サポーターに取り組んでいる。  
以前の会議で、小学生はごみに対する意識が高いが、中学、高校となるにしたがって意識が薄れていくという話もあったので学生に頼むのもいいと思う。
- 市) いろんな意見をいただけるのはいいことだが、その意見を全部盛り込めればいいが、逆に分かりにくくなってしまうこともあると思う。集約する資料のレベルやサポーターの年齢層などで違うと思うが、どの程度の組織で、どこまでを見て、どこまでの意見を反映させるのか判断が、なかなか難しいと思う。
- コ) 市民とのキャッチボールという点について、行政では市民の方にアイデアをいただ

いたり、モニターなどお願いすることはしているのか。

市) ごみに関してはない。

**課題「ごみ減量化がなぜ必要なのか明確になっていない」について**

- コ) 太田市の廃棄物の基本計画ではH24年度の時点で1日一人737gごみが発生している。H30には700gで5%減量、H40までには685gに減量することになっている。
- 目標として数字を掲げても市民には分かりにくい。ミニトマト2個分とかゴルフボール1個くらいなどで表したほうがいいのではないかという意見もあった。
- H30の700gの目標は達成できそうなのだろうか。
- 市) 家庭系ごみの5%減量は達成できている。さらに40年に向けて減量を進めなくてはならない。景気がいい関係もあると思うが事業系が少し多くなっているのが課題。
- 委) 10月の広報紙でも5%の減量に協力をと載っていたが、なぜ5%なのか。
- コ) 広報紙でその見出しを見て減量をする人とやらない人がいる。5%減量したら市民にどんなメリットがあるのか、また減量の努力した効果を「見える化」しないと市民には分かりづらいのではないか。年間ごみ処理に15億かかる予算を例えば10億円に抑えれば5億円は教育に使えるなど、その減らした5%をどう活用したのか見える化が必要。
- 委) 市民からすると、ただ減らすというのではなく、その先のことをふまえて話をしてもらったほうが理解しやすいと思う。
- コ) 前回のナビゲーターの話に小金井市では処分場の受入れがなく、市民とごみを減らさなくてはという危機感が共有化されていた。何かその先に目指すものが共有化されていないと市民も頑張れないということだと思う。
- 委) みんな、なんとなくごみを減らさなくてはならない事やごみを減らしたらどうなるかということは分かっている。そういう事の内容をはっきりと行政から市民に伝えてもらえると啓発になると思う。
- ごみを減らしたらこれだけ税金が安くなるなど。
- 委) 15億円の5%って7,500万円ですが、7,500万円減りましたと5%減りましたでは感覚が全く違うと思う。
- 市) 今まで、セグメントバランスシートで算出した1tあたりの処理にかかる費用の広報はしているが、ごみが削減した時にどのようなメリットがあるかの広報はしていない。これからは、そのような広報もやらなくてはならないと思う。
- また、市民対話の方法として例えばハガキやホームページ等で皆さんの家庭のごみ減量アイデアや意見を募集する方法を内部で協議している。皆さんから行政では分からない気づきを教えてもらい対話をしていきたい。
- 委) 市民を巻き込み今回のような会議を継続して開催すると、もっと面白い方向へ、行くのではないかと思う。
- コ) いつも、市民、企業、行政のみんなが参加する会議があるとそれぞれの実際の声を聞くことができる。



- 委) ごみの減量には周知、啓発を行うことがいちばん大切だと思う。スポレク祭などの事業を行う時に合わせ行いごみの事を考える機会を増やすことで、ごみの減量への関心がおこるのではないかと思う。
- 委) スーパーでは資源の回収をしてポイントや金券に換えてくれるところがある。そういう店が増えるといいと思う。

**課題「分別方法が複雑で、市民が理解して分別できていない」について**

- コ) 燃えるごみの中に雑紙がかなり多い。雑がみ分別すればごみの量はかなり減るといいう意見が多く出ていたがこの点についてはどうだろうか。
- 委) この会議に参加するようになってから行政センターの倉庫へ良く行くようになった。倉庫に出せる資源ごみの中で、雑がみがいちばん少ないように感じる。雑がみが資源ごみになるということをうまく伝えられるといいと思う。自分の家庭で雑がみを分別してみたら5%どころではなく、とてごみの減量ができた。
- 委) 700gの半分は雑がみということなので、いちばん大きい数字のところの減量をするとう効果がある。ただ減らしましょうではなく、最初は雑がみ、次は何をターゲットにすると、一定の期間集中的に行ったほうが理解しやすいと思う。
- 委) 雑がみってそもそも何なのか分かりにくい。分別して集めるのに、もっと回数を出せるようになって、アピールしてもらえれば出しやすくなると思う。
- 市) 新聞・ダンボール・紙パック以外の紙は全て雑紙になる。その中には雑紙として出せないものがあるので、そこは注意してもらえばいい。石けんなど強い臭いが残っているもの、シュレッターした紙や内側がアルミの紙パック等。雑がみの範囲が広すぎるので、これは出せませんというお知らせになってしまう。身近にある紙はほとんど出せる。
- 委) 雑がみ用のごみ袋を作ったらどうか。分別ができていない人をターゲットに。市としてこういう風にしましょうとルール化してしまえばその方向に行く。
- 委) 雑紙をなぜステーションで回収できないのかが不思議。

**課題「分別、資源化を促す仕組みが整っていない」について**

- 委) ごみ袋が安いということもあり雑がみを生ごみと一緒に出してしまう。雑がみを含めごみを減らすことを考えると、ごみ袋をチケット制にして世帯の人数に対応した一定量までは従来の値段で購入でき、その一定量を越えた部分は高額な袋に設定したほうが金銭的な感覚からしても減量になると思う。
- コ) 太田市は他の自治体よりごみ袋の値段が安い。ごみ袋の値段を上げることによって、ごみの量が減り、分別も進み一定の相乗効果がある。ただし、料金の設定の時には行政の説明責任があると思う。
- 委) 値上げには反対。不法投棄が増えるのではないか。市民サービスなら値段を上げる必要はなく、財政が健全ならサービスの一つで住みやすい町として、このままでいいと思う。
- 委) 行政センターにある資源倉庫について、いつも雑然としていて職員が苦労している

ように見える。袋の値段を上げる前に、ごみの出し方の意識づけができていないと思う。

市) 雑然と置いていく人や出し方でこれはだめだよねということもたくさんあるが、そもそも資源倉庫に持ってくること自体が分別の意識があるという事だと思う。

委) 行政センターに紙資源ごみを持っていかなくてはと思いながらも収集日だからもえるごみで出してしまうこともある。ステーションで紙資源ごみの収集はできないのか。

市) 以前は紙資源ごみのステーション収集をしていた。

コ) 止めた理由は何か。

市) 報奨金制度があるのでやめた。地区を中心に各団体で集団回収を行ってもらえれば地域に還元でき団体育成にもなる。行政センターの資源倉庫で集めたものは、今は報奨金制度の対象外である。回収量は統計上、把握しているが収入や使い道は分からない。